

# 第10回栃木活性化サロン テーマ「テレワークの導入・定着に向けて」

## ～ 災害やコロナ禍を踏まえた働き方改革の推進 ～

◇令和2年11月26日開催

◇ゲストスピーカー (株)あしぎん総合研究所 研究員 吉田匡崇 氏

### 「コロナ禍で進むテレワーク ～テレワークの動向と地域活性化～」

#### 1. テレワークの動向

##### 【テレワークの導入状況】

地域企業（※1）を対象にしたアンケートでは、本年1月（コロナ禍）以前からテレワークを導入していた企業3.2%、同2月以降導入26.4%、導入予定7.1%。多くは感染症対策で導入しており、全国では56.4%が導入済み（※2）となっている。

##### 【テレワークの導入形態】

導入形態は、在宅勤務、モバイルワーク、サテライトオフィス勤務の3種類。ステイホームが提唱されていたため、その多くは在宅勤務。会社のPCを活用しながらも、システムに入れないなどの理由から、約半数は入社時よりも業務範囲は限定的。

##### 【導入目的・効果・継続意向】

約4割の企業が導入効果を実感。一方で導入効果がわからないとする企業も多数。導入効果を実感している企業は今後も継続意向だが、導入効果がわからないとした企業は今後の継続について未定としている傾向。

徐々に普及傾向にあるものの、対象者の選定やセキュリティ、費用負担等の面において課題を認識。

##### 【テレワーク未導入の理由】

未導入の理由として、「適した仕事がない」が圧倒的多数。職種（総務部、財務部など）単位で導入を検討することも有効。

#### 2. テレワークと地域活性化

##### 【地方移住への関心の高まり】

テレワーク普及を契機にオフィスの在り方を見直す動き。席数の縮小、シェアオフィス化、オフィスの分散化など。

地方移住の課題は、働き口が見つからない、賃金が低いなど。テレワークの活用で地方移住・二拠点居住の促進を図るチャンス。

地方は、企業誘致と併せてサテライトオフィスの誘致などアクションを起こす必要。交流人口増加により地域産業の成長に期待。

##### 【ワーケーション】

ワークとバケーションの掛け合わせ。テレワークにより職場とプライベートの垣根がなくなり、観光とテレワークの2つの観点から、地域活性化につながるものとして期待。また、ワーケーションに絡むビジネスの創出による地方創生にも期待。

##### 【レジャー】

ビジネスとレジャーの掛け合わせ。出張時の滞在時間を延長して旅行やレジャーを楽しむもの。関係人口の増加に期待。

##### 【栃木県の強み】

首都圏からのアクセスがよく観光資源も豊富なことから、サテライトオフィス誘致、ワーケーション、レジャーの推進に非常に大きなポテンシャルを持っている。

（※1）栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県

（※2）東京商工リサーチ「第5回新型コロナウイルスに関するアンケート調査」